

まゆだま

通信

News Letter

第2回群大まゆだまスクール

inあらまき開催

8月24日、1年生～6年生30名（女子20名・男子10名）の教職員の子どもたちがまゆだまスクールに参加しました。中村両立支援アドバイザーがリーダーとして活躍し、教育学部から6名（男性2名含む）、保健学研究科から3名の学生がボランティアとして加わりました。さらに、子どもたちの居場所づくりに取り組む「ぐんま地域活動連絡協議会 みらい子育てネット」の会員2名の方にもご協力いただきました。

朝の班活動では「もみじ」「ブルーハワイ」「かがやくゆうひ」「グリ〜〜〜ンチ〜〜〜ム」「ワンピーススタームーンイエローゴールド」とユニークなチーム名を考えながら打ちとけました。「バスボム（入浴剤）」作りでは、お仕事を頑張っている大事な人へのメッセージを添えて、手作りのかわいいプレゼントに仕上げました。一緒にお風呂に入って楽しめましたでしょうか。そして、「モジモジゲーム」「Callゲーム」では、班のチームワークの良さを発揮し、1年生から6年生まで大いに盛り上がりました。ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。

第2回まゆだまスクールinあらまきを終えて

まゆだまスクール校長・男女共同参画推進室コーディネーター・講師 長安めぐみ

皆様のご協力で「まゆだまスクール」を無事終了しました。30名の児童（第1回から延べ52名の児童）が「まゆだまっ子」として楽しい時間を過ごしました。子どもが学内を闊歩する姿を不思議に思う人もいるかもしれませんが、しかし、「子どもの居場所のある大学」の風土づくりは、幅広い人材や多様性の尊重にむけて重要なことだと考えます。今後は、子どもを持つ留学生や主婦の学生も増えていくかもしれません。皆様のご理解とお力添えをどうぞよろしくお願い致します。



発行

国立大学法人群馬大学
男女共同参画推進室

〒371-8510
群馬県前橋市荒牧町4-2
TEL: 027-220-7146
FAX: 027-220-7143
mail:kyodo-sankaku@jimu.gunma-u.ac.jp
HP:http://kyodo-sankaku.gunma-u.ac.jp/



2016.11

vol.12

全職員に向けてアンケートを実施させていただきましたが、平成29年度荒牧キャンパスの近隣に、民間の新設児童クラブが設置予定です。来春の開設に向けて、職員の要望を集約し、「まゆだまスクール」を発展させた形での連携を進めて参ります。

大学幹部向けFDセミナー開催

昨年度に引き続き、5月19日、女性研究者の活躍推進を目的に大学幹部向けFDセミナーを開催しました。「大学の将来構想の一環としての女性研究者の活躍促進」をテーマに、広島大学理事・大学改革担当副学長 相田美砂子先生（大学院理学研究科教授）をお招きし、ご講演いただきましたが、教育研究評議会評議員26名が参加しました。広島大学では平成18年度より男女共同参画を宣言し、あらゆる研究戦略に女性研究者を常に3割含めるという実践を長年展開してきました。

その結果、不足しがちな若手の研究者の層が厚くなり、多様な視点による教育研究環境が実現しました。女性活躍推進ではなく、女性の活躍が「ふつう」である社会を目指すべきであると力強く語られました。



相田理事の話に聞き入る大学幹部

第2回役員等と女性教員のランチミーティング開催

昨年に引き続き、学長、理事、副学長、監事の皆様と女性教員とのランチミーティングを、桐生（6月14日）および荒牧キャンパス（6月22日）で開催しました。本交流会は、女性研究者や男女共同参画に関わりのある教員から様々な要望を直接学長等にお伝えする貴重な機会となっています。今年4月に独自の理工学部男女共同参画推進委員会を立ち上げた桐生キャンパスの会には、女性のみならず、男女共同参画に関心をお持ちの男性教員も多数参加されました。荒牧では、新任と若手の女性研究者の皆様にお集まりいただきました。どちらのミーティングも、自己紹介の後自由に懇談し、終始和やかな雰囲気の中で有意義な意見や情報の交換ができました。ただ、特に病院で勤務されている方々から昼休みの時間帯は参加しにくい、というご意見もいただいております。今後の課題として検討が必要です。毎年継続的に開催の予定ですので、次回も奮ってご参加ください。



桐生キャンパス



荒牧キャンパス

オープンキャンパス 女子学生向けプログラム開催



荒牧キャンパス



桐生キャンパス

3年目の取り組みとして、オープンキャンパスで女子高生向けのイベントを開催しました。桐生キャンパスでは7月23日、24日に女子限定学科横断研究室見学ツアー、女子学生による相談会、女子大学院生と教員による理工学部進学のおすすめのプログラムを、独自に組織された理工学部男女共同参画推進委員会の教員が中心となり計画実施しました。延べ187名（見学ツアー79名・相談会12名・進学のおすすめ96名）が参加し、女子高生には、現役の女子学生とのふれあいの時間が大好評でした。年々充実した内容が提供されています。

また、荒牧キャンパスでも、7月30日、31日に「女子高生向けの説明会」を開催しました。群馬大学まゆだまプランの概要説明、女子大学院生による研究室紹介動画の上映、教員による女子の活躍紹介を行い、女性が活躍できる大学をアピールしました。延べ531名（学生368名・保護者163名）が参加し、学部説明会から引き続き参加できるよう配慮したため、昨年度より96名参加者が増加しました。学生の手作り動画が大変好評でした。

女性職員キャリアアップ啓発研修実施

9月15日に荒牧キャンパスで、主任以上の女性職員を対象に啓発研修が実施されました。本多理事のご講演に続いて、10人の参加者たちはグループに分かれて「理想の女性上司とは」、「管理職に求められるものとは」、「理想の係長像とは」などのテーマでグループワークと発表を行いました。参加者からは、部署を超えた女性職員同士の意見交換ができ、仕事やキャリアアップについて改めて考える良い機会になったと、好評でした。また11月には、ワーク・ライフ・バランス推進のための、仕事の効率化に関する職員向けセミナーが開催される予定です。



本多理事講演



女性講師によるグループワーク

泉生体調節研究所長インタビュー ～男女共同参画を語る～

インタビューー 泉 哲郎

生体調節研究所長

インタビュアー 長安 めぐみ

男女共同参画推進室副室長

佐藤 美由紀

男女共同参画推進室員



生調研初の女性教授誕生

佐藤：生調研での男女共同参画の現状についてお話しください。

泉：生調研は研究が主な対象ですから、どうしても論文など客観的なものが評価の指標となります。その点は男女の差別は全くありません。一方で小さな部局ですので、女性を優先的に採用するのは難しいという事情があります。それでも現在、助教以上の職では18%が女性教員で、平成24年度の12%から徐々に上がってきています。

佐藤：今年は生調研で初めて女性の教授が誕生しました。

泉：これは生調研にとっても非常に良かったと思っています。実は医学系研究科の中でも初めての女性教授です。彼女の場合も非常に実力が高かったために選出されました。今年は助教でも女性の方を採用いたしました。

研究所は共同利用・共同研究拠点に再認定されていますが、常に厳しい評価の対象で、とにかく研究で外に訴えていく必要があります。その点で、女性が活躍すれば必ず目立ちます。我々も本来、女性の方で優秀な方がいらっしゃれば沢山取りたいと思っています。最近では学会等でも優秀な女性研究者が増えていると感じます。女性は家事などがあるので、研究においても無駄なことをしない。緻密に計画をして効率的に進める方が多いと思います。



長安：ワークライフバランスという点で、女性は男性の少し先を行っています。

泉：そうなのです。ただ、問題は子育て、特に最初の2～3年の内はどう頑張っても女性に負担がかかってくる。

佐藤：研究では2～3年ブランクを空けるというのは厳しいですね。パートナーにも負担して欲しいとなると男性側のワークライフバランスにも配慮していきような雰囲気が欲しいです。

長安：部下の子育てに理解のある上司を「イクボス」というのですよ。

泉：なるほど。両方とも同じくらい仕事と家庭に参画出来れば理想ですが、その辺りはそれぞれの夫婦で解決していかなければならない。それでも社会として、必要なサポートをできるようなインフラは大事だと思います。

長安：研究活動支援の利用にしても、皆さん、しっかり結果を出してくださっています。そのような支援が安定してあること自体が男女共同参画を進める上で大事なことだなと考えています。

今後の生調研の男女共同参画

佐藤：最後に、今後の生調研や大学全体での男女共同参画についての展望についてお聞かせください。

泉：研究所としては男女問わず優れた人を取りたいという思いがあります。公募は実績が同じくらいならば女性を取りたいと謳っております。もし本部が「女性枠」を新たにくれれば喜んで選考します（笑）。また、若手全体の支援にも力を入れていきたいと思っています。

それと、群馬大学でもやられていますが、例えば大学の中に保育所とか、そういった働きたい女性をヘルプするような支援を広げていっていただきたいですね。「これだけ休めます」って言っても、女性の科学者にとってはそんなに魅力ではないと思うのです。そういうことが進んで、女性の方がどんどん進出して欲しいと思っています。

佐藤・長安：本日はありがとうございました。